



明石市が全てのの人に住みやすい都市となるために、次なるステップに進む時期にきています。

ポイントは無料化競争からの脱却と、地味でもきめ細かく質の高いサービスを全ての市民に届けることです。

子育て

保育料や給食費といった子育て関連の無料化が進みました。良い面も多いのですが、これ以上の無料化を探すよりも、質の高さを確保することが重要です。

2022年度の待機児童数は全国3位の100人、「せつかく移り住んだのに保育所に入れなくて、育休後に復職できない」という相談も寄せられています。

また、「しっかりと働いて税金を納めるつもりなのに保育所に入れない」と話す会社社長や税理士の女性からは、経営者に不利な制度について相談がありました。これは市に働きかけて改善すべき課題ですので、引き続き取り組んで参ります。

明石って政策偏ってない？ 「安い」「お得」から次のステップへ

学校・教育

大久保地区では学校の過密が問題になっていきます。山手小学校は児童数県下2位の1239人、大久保小学校は3位の1205人であり過密状態。校舎を増やすと運動場を圧迫します。新設校の設置も検討すべきではないでしょうか。

また、中学校では教員不足による免許外教科担任が増えています。

英語の教員が足りないのに担当するということになり、十分な制度。生徒に十分な学びの機会を提供できない恐れがありますし、専門外を受け持つ教員にも負担が生じます。



医療

明石市は医療機関や病児・病後児保育施設について、地域の偏りが度々指摘されています。また、耳鼻科については連休や年末年始などの休日診療が不足しており、子育て世代からも、高齢者からも相談・苦情を受けています。無料化で生活コストが安くついても、医療にかかれない環境では意味がありません。行政は誘致政策に乗り出すべきです。



保育所

今年度から明石の保育施設で「使用済みオムツ」を施設で処理するようになりました。以前は「子の健康状態を確認する」などという無茶苦茶な理由で保護者が持ち帰るのが当たり前とされてきました。持ち帰り廃止によって、保護者も保育士も負担が減ることになり大きな改善です。さて、次は「手ぶら保育」に取り組みましょう。紙オムツや昼寝ふとんを持って来なくて良いサービスです。現場も持ち物チェック等の負担が軽減されると好評。今後はこれが全国で普通になると見込んでいます。

明石には「何年も前から市に要望しているのに進まない」という課題が多くあります。今の市政では光の当たらないテーマこそ、中西レオは取り組みます。

中西レオ報告会



10月30日(日)

14:00~16:00

アスパア明石8階 802

<テーマ>

『もっと明石を知ろう』

初参加大歓迎、途中入退出OK
予約不要、参加無料